

社団法人私立大学情報教育協会
平成 22年度 第4回歯学教育 FD/IT 活用研究委員会
議 事 概 要

- I. 日 時 : 2011 年3月 7 日(火) 午後1時 30 分～午後 3 時 30 分
II. 場 所 : 私立大学情報教育協会事務局会議室
III. 出席者 : 神原正樹委員長、齋藤孝親委員、岡本公彰委員、佐藤利英委員、
森實アドバイザー、藤井彰アドバイザー、奥村泰彦アドバイザー、
(事務局)井端事務局長、森下主幹、平田職員

IV. 議事概要

1.資料確認・説明

学士力の実現を目指す ICT 活用授業の開発モデルと、**Competency of New Japanese Dentist** の資料および参考資料として歯学教育モデル、コア、カリキュラム、日本経済新聞記事、朝日新聞記事、高等教育に関する今後の流れ等について資料確認を行った。

2.学士力（コアカリ）実現に必要な ICT 活用の具体的な検討について。

中学校の学習指導要領が「ゆとり教育から総合学習へ」をかかげカリキュラムが策定されてき 24 年度からスタートする事になっている。内容は探求的な学習を行う、つまり、問題解決的な活動が発展的に繰り返される様な学習を行わせる。この様な学生が 5 年後に大学に入ってくることを考え、将来に向けての授業で求められる協同的な学習を通し「学び」を身につける事が可能な授業デザインと ICT 活用の関わりを具体的事例として提示することを確認し検討した。

担当委員から提示された 3 種類の ICT 活用授業の開発モデルについて説明がなされた。「歯科疾患予防を考える（齲蝕予防を中心に）」「齲蝕リスク判定」「初期齲蝕を理解する」をテーマにあげ知識だけではなく、まとめ、解析をインターネットなどあらゆる手段から解析を自ら行う事により、地域、歯科医師、日本、世界に通用する学士力を養うべきである。

事務局から 1 年間のカリキュラムだけで「予防医学」について実際に患者に伝えられるか疑問である。むしろ 6 年間でのコアとなるカリキュラムデザインを導入することにより、その能力を養うものを作ってほしいとの要望がなされた。

担当委員より生涯にわたる内容について、大学で身につける授業デザインを再度検討したいとの意向を受け、他委員から「**Common Competency Framework for Doctor**」を参考にとの意見がなされた。

今の歯学教育は技術中心の教育が行われており、予防医学を十分に反映されていないのが現状である。今後は世界の変化に伴って①すべての学科で予防などの共通コンセプト

トがないといけない、②患者さんとのコミュニケーション能力を身につける、③患者中心の職業に対する授業が必要との合意に至った。

以上の意見をもとに、授業モデルについては再度検討を行い、次回提案することになった。今後文科省から打ち出されると思われる授業形態の対応と 7 年後の授業デザインを考慮し、患者本位の健康デザインを打ち出すモデルを提案する予定である。

今後の予定は、3 月中に完成し中間まとめとする、4 月から 5 月にかけてインターネット上で歯学部関係者にアンケートを取り、5 月から 6 月にまとめに入る事となった。

3. Competency of New Japanese Dentist の作成

一部未完成なためネットでの検討とした。モデル・コア・カリキュラムの変更があることから、それと対応させながら完成を行う旨決定した。

4. 次回までの予定

- ・ ICT 活用授業の開発モデルに関しては「予防歯学」を中心に再度提案する。ネットにて意見を募ることとした。
- ・ e-ランニングについてもデザインを提案することとなった。
- ・ Competency of New Japanese Dentist を 3 月中に完成し、公表する。

5. 次回委員会

日時：4 月 14 日（木）午後 1 時 30 分開催予定

場所：私立大学情報協会事務局